

令和5年度武蔵野市すくすく泉事業有識者懇談会
議事録

日時：令和6年3月1日（金）

場所：武蔵野市役所 812 会議室

令和5年度武蔵野市すくすく泉事業有識者懇談会

○日 時 令和6年3月1日（金） 午後6時～午後7時30分

○場 所 武蔵野市役所 812 会議室

○出席委員 勝又委員長、箕輪委員、吉田委員、松田委員、鶴川委員、藤野委員

○事務局 子ども家庭支援センター担当課長、子ども育成課長、健康課地域保健調整担当課長

1 開会

【事務局】

皆さん、こんばんは。開会に先立ちまして、事務的なご説明を申し上げます。私はこの委員会の事務局を務めます子ども子育て支援課子ども家庭支援センター担当課長の石川と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、本日の会議の記録用に録音をさせていただいております。あらかじめご了解をお願いいたします。

それでは、会議の前に配付資料についてご確認をお願いいたします。

《資料確認》

【事務局】

まずこの懇談会のご説明からさせていただければと思います。令和5年4月に武蔵野市すくすく泉事業実施要綱を改正いたしまして、すくすく泉事業採択・評価委員会を有識者懇談会と事業採択・評価庁内委員会に再編いたしました。再編の経緯といたしましては、地方自治法の規定に基づく附属機関と意見聴取及び助言を求める場である懇談会等の取り扱いを整理するためです。

本会議におきましては、すくすく泉の事業について、円滑な事業運営助言を求めるための懇談会と位置づけ、この懇談会の意見を踏まえた上で、庁内の関係者で構成される事業採択・評価庁内委員会にて市として事業の評価を決定する流れとなっております。本懇談

会の委員の皆様におかれましては、各専門的なお立場から闊達な意見交換をお願いできればと考えております。今回が再編後初めての会議となります。今回から委員長は、武蔵野市すすく泉事業実施要綱第7条に基づき、子ども家庭部長を充てることになっております。

それでは、これ以降の進行につきましては、勝又委員長をお願いいたします。委員長、よろしくをお願いいたします。

【委員長】

皆さん、こんばんは。本日はすすく泉事業有識者懇談会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

今、課長から説明があったように、これまでこのメンバーの中で委員長を決めて、ここで採択・評価という形になっておりましたけれども、今年度から懇談会という形でやらせていただきます。懇談会の意見・助言を踏まえた上で市のほうで評価を行ってまいります。

それでは、お手元に送付している資料に沿って進めていきます。

本日の会議の終わり時間の確認をいたします。何時までの予定になっておりますか。

【事務局】

事務局から申し上げます。皆様への通知では午後7時30分とさせていただいております。

【委員長】

それでは、皆様、お手元にあります進行表に基づきまして、そのように進めていければと思っております。

まず初めに、懇談会として初めての開催でございますので、各委員から自己紹介をしていただければと思っております。自己紹介は、名簿の順に箕輪委員からお願いいたします。

【委員】

武蔵野大学の箕輪です。よろしくお願いいたします。

【委員】

東京学芸大学の吉田伊津美と申します。よろしくお願いいたします。

【委員】

主任児童委員をしております藤野久美子と申します。よろしくお願いいたします。

【委員】

NPO法人せたがや子育てネットの松田と申します。よろしくお願いいたします。

【委員】

公認会計士の鶴川と申します。よろしくお願ひいたします。

2 議事

- ・令和5年度すくすく泉事業実績（見込）について
- ・令和6年度すくすく泉事業計画（案）について

【委員長】

それでは、議事に入ってまいります。

まず「令和5年度すくすく泉事業実績（見込）について」、「令和6年度すくすく泉事業計画（案）について」を議事といたします。

それでは、まずは事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、審議の進め方につきましてご説明させていただきます。次第の進行表をご覧ください。

これから、事務局より、令和5年度補助金の執行状況及び令和6年度の収支計画についてご説明いたします。その後、いずみの会が会議に参加いたします。施設長ほか団体の皆様に自己紹介をしていただいた後、本題に入ります。

まず、団体から、資料2～4により、令和5年度事業実績の概要、資料5～6により、令和6年度事業計画の概要を説明していただきます。また、委員の皆様いただいた質問については、メールでお送りした資料7「委員事前質問一覧表」のとおり、既に団体より回答をいただいておりますので、本日の説明は省略とさせていただきます。

その後、各委員の方々から、団体に対して質疑を行っていただきます。質疑は7時10分ごろまでを予定しております。質疑の後、団体は退席いたします。

団体が退席した後、各委員からご意見をいただきます。いただいたご意見を踏まえまして、当会議終了後に開催される武蔵野市すくすく泉事業採択・評価庁内委員会で、市としての事業採択・評価を行います。

それでは、令和5年度の補助金の執行状況についてご説明いたします。資料4「令和5年度すくすく泉事業資金収支決算書（見込）」をご覧ください。

令和5年度は当初予算に基づき、市より1,449万2,000円を年4回に分割して交付いたしました。市が交付した補助金に対する実績見込みは記載のとおりでございます。補助金

の対象であるひろば事業及び一時預かり事業の収入は2,197万9,384円、支出は2,123万7,526円、収支差額74万1,858円を見込んでおります。この差額は100万円を超えないため、令和6年度に繰り越す見込みです。

続きまして、資料6をご覧ください。「令和6年度すくすく泉事業資金収支計算書（案）」と記載されている資料でございます。

令和6年度に市の交付する補助金は1,468万6,000円です。また、その他補助金等の内訳は説明欄に記載のとおりとなっております。ひろば事業及び一時預かり事業全体の収入は3,343万7,058円、支出は3,269万5,200円を見込んでおります。

事務局からの説明は以上でございます。

【委員長】

それでは、今、事務局の説明が終わりました。

まず、事務局の説明に対して何かご質問がある委員の方はいらっしゃいますでしょうか。ウェブの方は手を挙げていただければ指しますので、お願いいたします。——よろしいですか。もし何かありましたら、また後でも結構です。今の事務局の説明に対してのご質問があれば、よろしくお願ひします。

それでは、これからいづみの会の方に入場していただきます。事務局のほうで案内しますので、しばらくお待ちください。

<いづみの会入室>

【委員長】

本日はお越しいただきまして、ありがとうございます。今日この懇談会は、委員4人はここにいるのですけれども、ウェブでお2人参加していて、あちらのカメラに皆さんの姿は映っていますので、ウェブの方も見えています。そういう形でお願ひします。音は、中央のスピーカーより音声を拾いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、ただいまからすくすく泉事業の有識者懇談会のヒアリングを行います。

まず初めに、今日の出席者の自己紹介をお1人ずつお願ひできますでしょうか。

【いづみの会】

皆さん、こんばんは。いづみの会理事長の近藤と申します。夜分に時間をとっていただいて、ありがとうございます。

昨年、おかげさまでプロポーザルの結果、この5年間、もう一度担当してよろしいという市のお墨つきをいただき、ありがとうございます。今日来たメンバー全ていづみの会に

関係しておりますが、その中でも真ん中の2人は保育士、そして園長、その他役職として
いずみの会をしっかりと盛り上げていただいております。おかげさまで、地域の皆さんか
ら信頼が厚く、私たちも自信を持って、お母様、そしてお子様に接しているという状況
でございます。

今日はその中で、皆様にいろいろなこととお話させていただきます。よろしくお願いい
たします。ありがとうございます。

【いずみの会】

こんばんは。いずみの会の理事、種田と申します。よろしくお願いいたします。

【いずみの会】

すくすく泉施設長の上田と申します。お願いいたします。

【いずみの会】

保育施設長の関と申します。よろしくお願いいたします。

【いずみの会】

理事の汐見和恵です。よろしくお願いいたします。

【いずみの会】

同じく理事の阿部陽子です。よろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは、ご提出いただいております資料2から資料6までの説明をお願いいたします。
説明が終わりましたら、質疑応答の時間もございますので、説明は簡潔をお願いいたしま
す。

なお、資料7の事前質問一覧については、ご記入いただいたものを各委員に配付してお
りますので、特に説明の必要はございません。再質問がありましたら、またお答えいただ
く形になります。

それでは、いずみの会の方から順次説明をお願いいたします。

【いずみの会】

説明させていただきます。提出させていただいた文書をお読みいただいておりますので、
特に以前と変わったところや補足説明させていただきたいところなどを、ポイントを絞っ
てご報告をさせていただきます。

まずは令和5年度の実績報告です。

「事業理念」は変わりません。

「事業内容」も、基本的には変わらないのですが、コロナで変えた部分がコロナ以前にだんだん戻ってきたので、以前のような形になってきていると思います。ひろばも、一時預かりも同じです。

一時預かりの事業は、2023年10月より、ひろばの加算事業から一般型となり、一日を通して保育室、有資格者がいるシフトになっています。近所のママ集団で始めた私たちですけれども、10年たって保育士の資格を取った者がたくさん生まれましたので、こういったシフトが可能になっています。また、最近は外国籍の方の利用も増えているというのが2023年の特徴かなと思います。

【いずみの会】

小規模保育事業の内容としては、大きな変化はありませんので、資料をご覧ください。

「新型コロナウイルス対応」についてですが、5類に移行したことに伴って、こども家庭庁の感染症マニュアル及び武蔵野市の対応に準じて対応しています。ただ、ひろばと保育士の出入りなんですけれども、コロナ以前は全員ひろばの玄関から入っていたのですが、コロナのときは動線を分けて、感染が広がらないように入り口を別々にしたのです。そのことについては、使い勝手も考えて同じように分けたまま、玄関はそれぞれのところから入る形を継続しています。

【いずみの会】

では、「事業効果・波及効果」についてです。

子育てひろば事業です。

今年度はコロナ後の子育てということで、コロナ以前の子育てを知らない親子さんの、例えば食事や親子同士のかかわり合い、触れ合いみたいなものの感覚の違いですとか、在宅勤務が増えたりという生活パターンの変化だとか、現在の困り事などに丁寧に寄り添ってきました。特に離乳食や発達の困り事が目立ったと思います。

6月にとりました利用者アンケートでは、スタッフがいいという内容が大半を占めて、私たちが丁寧にひろばのあり方を話し合いながら重ねてきた結果であると、うれしく感じました。

はじめてのひろばは、引き続き行いました。こちらも最初に始めたころよりは人数は減っているのですが、毎月必ず予約があって、初めての人が安心して来られる入り口になっています。

Tomony と TomonyDay は、各月1回で、Tomony はいろいろなイベント事や講座みたいなも

のもやっております。TomonyDay はたまたまその日に来た人たちで、自己紹介をし合いながら出会っていくという日になっています。どちらも、参加すると「スタンプ、押して」という感じで、それも楽しみに来てくれて、かなり定着しています。特におもしろかったのが、初めて行った運動会です。「人生初の運動会だ」と言って、親子で楽しく盛り上がりました。これはほとんど全員お父さんが参加していたと思うのですが、これをきっかけに、ふだんのひろばにもお父さんたちが来れるようになっています。そういった企画もたくさんつくりました。

すくすくタイムは、発達に不安がある方たちが一緒に楽しめるようなひろばの場にしようということで始まったのですが、遊びを通じていろいろな感覚を刺激して楽しくみんなで過ごしましょうということや、悩み事とかをみんなで話し合うようなトークタイムもあります。これも定着してきています。

ひろばがお休みの月曜日の企画では、「離乳食講座」や「保活のはなし」など、いろいろな企画も続けております。

ひろばで食べようですが、7月から室内のカフェコーナーは常時大人も子どもも食事がとれるようにしました。最初は1組、2組いるかなというぐらいでしたが、現在は5～6組の利用があって、みんなでワイワイ食べております。

利用者を活かすの部分に関しては、今年度は特に一時預かりを利用して、資格を取られた方がオンラインヨガで毎月講座をやってくださっていました。講座やプログラムに関してだけでなく、特に2月、3月ごろはスタッフが増えたように感じるぐらいに利用者さんの動きがスタッフのようになってきていて、とても助かっています。いつもいる方たちが新しい方をうまく迎え入れてくれたりという姿が見られます。

collabono コミセン親子ひろばについては、利用数が思ったより伸びていないので、これは来年に向けてまたいろいろと周知の方法とかを考えていこうと思っているところです。

そして、一時預かり事業です。

今年度はキャンセル待ちの受付を新たに始めました。これは、何度も電話して空き状況を確認しなくて済むということで、とても好評です。10月から一般型一時預かりの事業に移行しております。ここが変化したところです。

【いずみの会】

小規模保育事業です。

A型に移行したのですが、常勤もたくさん増えて、安定的な保育を展開できる体制にな

ったと思ったら、定員割れで、今年度はそこが大変でした。運営的には厳しかったと思います。

事業効果・波及効果でよかったところをお話しすると、やっぱり子どもの育ちです。実物をここに連れてきて見ていただくのが一番わかるかなと思うんですが、10人の子どもたち1人1人がとてもよく育ったと思います。親ばかのようにですけども。

保護者のアンケートの中でも、あと、運営委員会という保護者が入って話し合いをする場面があるんですが、そこの中でも「この保育は最初からだめと言うんじゃないくて、やってみて、体験して、そこから自分で気づいたり学んだりする保育です」と保護者の方が言ってくれました。そんなところもわかってくださっているんだなと思いました。

人とのかかわりで、けんかももちろんあるんですけども、けんかを無理にとめるのではなく、子どもたちの様子に合わせて自分で言えるようにとか、こちらもハラハラするんですけど、やりとりできるようにしてきたことで、心がとても育っているし、人とのコミュニケーションがよく育っていると思います。「見守ってくださる保育でよかった」という保護者のアンケートがありました。

保護者のアンケートには出ていないので、自画自賛みたいになりますが、体の動きとか感覚の育ちの勉強をしてきて、子どものやりたいところをとめないで、どうやったら安全にできるかみたいところを考えて、それぞれにできることが少しずつ増えて、自信がついてきたなと思っています。その1人1人の育ちを確立するための日々の工夫とか発達チェック表の改善、研修、保護者との連携などはこちらに細かく書いてありますので、資料をご覧ください。

今年度の特徴的なところですが、先ほどの運営面の定員割れのこともあるんですけど、ほかにもICT化を進めました。システムを入れまして、登降園の入力、給食写真の配信、試行錯誤中ですけどもドキュメンテーションを使って子どもの様子を保護者に配信する。写真販売は、システムを使う形に順次移行して、仕事の効率化を図れました。

あと、コロナ禍を超えて、交流がたくさん増えました。小中学校、近隣の保育園と一緒に研修したり、遊びに行ったり、ごっこ遊びに招かれたりしました。

次は、「達成目標に対する評価・反省」です。

【いずみの会】

3事業の連携で質を高めるというのは、いつも意識してやってきました。今年度も、ひろばプログラムの講師として、いずみのおうちの保育士が参加しておんぶ講座、保育園生

活の座談会を行いました。また、給食で提供しているスープを、ひろばに来た親子も楽しめるというイベントも行いました。保育とひろばが一緒に企画して、クリスマス会を行いました。

3事業ならではのそれぞれの特徴を生かし、いろいろ柔軟にクロスしながら利用者さんに対応していくということを意識してやりました。

井の頭アートマーケットについてです。今年初めて井の頭公園で大道芸だとか音楽だとかをやっている方たちのところとつながりが持てましたので、コンサートをうちでやってもらって、多くの親子が遊びに来てくれました。

それから、多様な子育ての部分では、療育に通う子どもたちの利用は日常的になっていまして、いろいろなところから来ているのですけれども、通っていないけれども少し不安があるという親子さんの相談に乗ったりも、お母さん同士がしてくれています。

外国出身の親子さんの利用も、先ほども言いましたけど増えています。ここはまだ、そのところにちゃんと対応できているとは思えないので、これから話し合っていて、どうしたらいいかなと思っております。

切れ目のない支援のところは、助産師さんの産後ケアとか保健師さんからの紹介という利用も増えております。

【いずみの会】

地域とのつながりについてと、下の部分の話をピックアップしながらお話しします。

昔遊びの日は、卒園生やひろばの親子も含めて、とてもいい多世代のかかわりが続いています。ここには書いていないですが、初代卒園生のお母さんが同窓会を企画して、以前のスタッフも含めて30人ほどが集まりました。お母さんは当時のことを「ベテランの先生が多くて安心だった」と言ってくださったんですけど、今は小学校4年生を中心とした集団になっていて、お母さん方の悩みもまた違ったものになって、そのお悩み相談会になっています。あと、すすくすく泉の前を通るたびに「ここにすすくすく泉があると思うと安心する」みたいな話もあって、お母さんたちの心のよりどころというかセーフティーネットの部分もできてきているのかなと思っています。

公園に関してです。小学生、公園ボランティアさん、工事のおじさんとの関りがありました。今年は斜め向かいに新しい園ができるというので、工事のおじさんがどんぐりを持ってきてくれたり、こちらがそれでリースをつくったのをあげたり、そういうかかわりがあった。子どもたちは工事が大好きで、遊びに取り入れてみたいなかかわりもありました。

中学校の職場体験のほかに、今年は小学生と中学生の育児体験のボランティアを初めて実施しました。井之頭小学校とは、初めてなんですけど1年生の秋祭りに参加させていただきました。6年生の交流会には2歳児4名が参加しました。6年生の授業で初めて保育士についてという話をしてきたのですが、15分しか話さなかった中で、感想に「僕は今まで仕事はお金を稼ぐために行うものだと思っていましたが、今回のお話で考えを見直しました。仕事に目的があると。今回の話で保育士は子どもに安心できる第2の家をつくりたいと言っていましたね。子どもや仕事に愛を持って働くのはすてきだと思います」というのがあって、6年生のすてきな感性にびっくりしたということもありました。

あとは保育士資格取得が進んで、保育室は全員が保育士になりました。

【いずみの会】

「令和6年度以降の見通し」です。事業計画とも重なる部分がありますので、ここでは簡単にお話しします。

ひろばは、一時預りとともに「多様な子育てを支える」、「みんなで育てる」を令和6年度のテーマにして進めたいと思っています。ここで出会って、ここから地域へ、やがて支え手としてここへ戻ってくる。これはずっと言ってきたことですがけれども、今年度は元利用者のスタッフが3人になりました。また、プログラムの講師やボランティアなどで利用者がこちらに支え手としてかかわってくれるということが見えてきました。これも令和6年度さらに進めていければと思います。

ひろばのプログラムについては、1年間の大きな計画を1月ぐらいに既に立てています。実際はすすくすく泉のよさということで考えているのですけれども、小回りがきく、そのときのニーズに合わせて少しアレンジをしていったり、例えば新しいプログラムを差し込んでいったり、ちょっとこれは合わないなと思ったら時期をずらしたり、その辺を細かく調整しながら、また令和6年度もやっていきたいと思っています。

一時預かりも、多様な働き方や親のメンタル面、特別な支援を必要とするお子さんなども対応しているので、1人のスタッフが抱えるには少し大きな問題も出てきています。みんなで話し合いを重ね、情報交換をしながら、チームで対応していくということに重点を置きたいと思っています。

新事業で、定期利用枠をつくります。「多様な他者との関わりの機会の創出事業」という東京都の事業を4月から始めます。これは本日、3月1日より予約を開始しましたが、30分ぐらいで全枠埋まりました。こちらでも丁寧に対応していきたいと思っています。

【いずみの会】

小規模保育事業で大きなところは、定員を10名から11名に増やします。空き枠ができてしまうので、なるべく10人は確保できるようにという形です。そこが大きく変わってきます。

あと、新入園児の獲得のために、すくすく泉のよさについてアピールしていきたいと思っています。

そのほかについては、計画のところとかなり重なってくるので、あとは資料を簡単に読んでいただければと思います。

【いずみの会】

それでは、決算書（見込）の数字の説明をいたします。資料4は3ページあります。2ページの下の方、最終決算は45万2,691円の利益で終わるであろうという見込みを立てております。

令和5年度、大きな違いは、当初予算を組むときに10人保育のところを8名保育ということでしたので、120名の児童数96名で予算を組んだために、3ページ目の予算と見通しの比較表のとおり、238万ほどの赤字予算で組んであります。ただ、実際、年がかわりまして徐々に埋まって、最終的に、120人のうち114名まで埋まる見通しでございます。これで小規模の補助金がほぼ形がついたということです。

一時預かりのほうは、期の途中に一時預かり一般型補助金をいただくことになりました。10月から3月までなのですが、約169万円をいただけることになりました。仕事もさることながら、我々としましては、人件費の組み直しということが可能になりましたので、これが全体的なバランスとしては大きかったかと思えます。

予算時に組みませんでした保育サービス補助金が240万円ほど今見込まれておりますので、この数字を入れてほぼ45万2,000円の見通しがついたということでもあります。

経費で一番大きいのは、もう10年を過ぎまして今まで手計算でやってきた勤怠管理と会計にソフトを導入いたしました。3ページ目の数字、86万強、これが予算より多くなっているのですが、この大半がシステム導入時の費用と毎月の運用費用です。会計はまだ半年ですけれども、3月までに全部完成して、4月に備えていきたいと思っております。

以上であります。

【いずみの会】

では引き続き、令和6年度事業計画に移ります。

「令和6年度に力を入れて取り組みたいこと」は、先ほどと重なるのですが、「多様な子育てを支える」、「みんなで育てる」をテーマに進めていきます。

3番目の、子育て世代の親の世代からも信頼される場というのは、今年初めて「おしゅうとめさんから勧められて来ました」とか「お母さんから勧められて来ました」みたいな、地域のおばあちゃん世代からすくすく泉を勧められて子育て世代が来たというのが何組もありました。地域の中にすくすく泉が、安心できる場として存在してきたんだな、そこまで来たんだなと思ってうれしく思いました。

もう一つ力を入れたいのは、防災意識を高めるという取り組みです。毎月 TomonyDay やってはいたんですけども、やっぱり1月の地震を受けて、皆さんそこはいろいろと勉強したいという真剣な声が上がってきていますので、私たちも TomonyDay を中心に進めていきたいと思います。

一時預かりは、一般型の一時預かりになったことと、定期利用も始まることで、まだ資格を取れていないスタッフの資格取得、有資格者の採用に力を入れたいと思います。若手が入ってくるとうれしいなと思っております。

定期枠は先ほどお話ししました。

外国籍の利用者についてです。これを提出した後に私たちが話し合っただけ追加があります。外国籍の親子の利用に対して、やはり登録するのにハードルが高いということで、こちらでつくっている利用登録に関するしおりの英文バージョンをつくらうという話になっています。契約事とかルールがたくさん書いてありますので、それがわからないと登録するのにハードルが高いようです。

【いずみの会】

小規模保育ですが、定員を1名増やしました。1人増やすというのはとても大きいことなので、その受け入れ体制をしっかり整えて、11人しっかり育てられるように、1人1人に合わせたかわりについて読み取りとか環境面の配慮をしていきたいと思っています。

また、研修の充実というところでは、近隣の園との研修を再開したいと思っています。

保護者との信頼関係ですが、子育てを支えるという役割があると思っています。配慮が必要なお子さんが入ってきたりもするので、保護者と一緒に、連携して育てていくというところを丁寧にしていきたいと思っています。

仕事の見える化、効率化、ICT化は大分進んではきているのですが、さらに進めていきたいと思っています。

地域の子育てや小中学校との関係というところでは、今までどおりですが、職場体験のほかに小中学生のボランティアも受け入れてみたいと思っています。

あとは、卒園児が遊びに来る機会なども意識して、世代が縦にずっとつながっていくみたいな形になったらいいなと思っています。

「中長期目標」です。

例年書いていることと大体同じなんですけれども、3番目の、切れ目のない支援というところでは、妊婦さんから始まって、小学生も卒園生がだんだん大きくなってきて、そこから辺もつながってきて、中高生、中学生の職場体験とか、多世代がどんどんつながってくるところを温かく見守るセーフティーネットになっていけばいい、それが現実味を帯びてきたと思っています。

運営体制の安定化と次世代へのつなぎですが、若いスタッフも入ってくるようになって、利用者がここにかかわって、運営側に入っていきみたいな流れをだんだんつくって、次世代につないでいけたらいいなと思っています。

【いずみの会】

「事業内容」は、特に大きな変化はないんですけれども、傾聴を十分にしながら、スタッフみんなで言葉かけや働きかけを、情報交換しながら、考えながら進めていますので、それを引き続きやっていこうと思います。個人情報にさわらない程度にグループ LINE のやりとりをしたり、鍵付きの note を使ったりして、レベル分けしながら、今も情報交換しております。スタッフが何人もいるので、その辺の情報交換は丁寧な対応が必要なので、そこを気をつけながらやっております。

利用者は相変わらず「お客様にしない」をみんな合い言葉のようにしているのですが、ただサービスをする場所というよりは、この場を一緒につくっていくということで、いろんな意見を聞きながらやっています。

今回、警察が入って防犯訓練、不審者訓練をしてもらいました。そのときに、鍵を入りにかけなさいという話で、鍵のあけ閉めがとても大変な作業になるのですが、来るたびに利用者さんがあけてくれたり、閉めてくれたり、声をかけてくれたりというふうに、みんなで「防犯は大事だよ」と言いながら進めています。

日常的にもお父さんの利用が大変増えてきておりますので、母親のほうに偏らないような言葉かけだとかをいろいろ考えながら、配慮しております。

このあたりは読んでいただければいいかなと思います。

いろいろな講座のプログラムがあるので、外部講師にお願いすることもたくさんありますが、外部講師にお願いするときも丸投げではなくて、すすすく泉が伝えたいことを十分に話し合いながら進めています。

令和6年もそのように進めていきます。

一時預かりについてです。

一番気になっているのは4月からの「多様な他者との関わりの機会の創出事業」です。一時預かりで定期的に預かるのはなかなか難しいのですけれども、継続した預りとなるので、その子の預り計画みたいなものも必要になってきます。丁寧に取り組んでいきたいと思えます。

【いずみの会】

保育のほうからです。例年のことと今までお話ししたことがここに全て入っているので、特に加えることはないのですけれども、1人1人を大事にということと、気持ちとかその子の育ちに寄り添って、その子に必要なことをというところを大事にしていきたいと思えます。子どもは毎年違うので、ここには書いてありますけれども、実際にはその子に合わせたことをやっていきたいと思っています。

あとはそのまま読んでください。

【いずみの会】

3事業の相互のかかわり方は、3事業がかなりクロスして、お互いに会議に出たり、一緒の会議をつくったり、コミュニケーションがとれてきていると思えますので、引き続きそこを生かした形で、3事業があることによってできることを考えていきたいと思えます。

先ほど不審者訓練の話をしました。入ってくるハードルをできるだけ下げることを目指したオープンなひろばと、セキュリティーを考える保育が同じ屋根の下にあるので、ここはとても難しいところです。どこまでどうするという話し合いをさらに重ねていきたいと思っています。

【いずみの会】

地域参加・参画方法です。うちの公園の斜め前に新しく保育園が開設されるのですが、12月に近隣の園と私たちと新しい園で顔合わせをし、話し合いをしました。送迎バスのこととか、すすすく泉公園には多くの園が遊びに来ていることだとか、自然に触れて伸び伸び遊ぶ場として開設時からすすすく泉がボランティアと連携しながらごみを拾ったり、花壇をやったりという管理をして、みんなが使えるように考えている公園なんですよとい

うところをお話しして、ここから先も話し合える体制をつくっていきたいと思っています。

あとは資料をご覧ください。

会計のほうからお願いします。

【いずみの会】

それでは、令和6年度資金計画を説明いたします。資料は6ページに分かれております。その中の今年度の見込みと予算の比較表をあけていただければと思います。

まず、「小規模」なんですけれども、大きな経常収入の変化があります。5年度は10名保育で計画を提出しました。それに対して令和6年度は今、11名保育でお願いしております。それによる補助金の合計が590万ほど増えます。これが大きな増です。次に、「一時預かり（一般型）」が年を通してになりますので、336万2,000円と、今説明のありました「多様な他者との関わり」の新しい補助金が780万強、約1,100万入ります。この経常収入の大きいこと、これが一番大きな変化です。

経常支出のほうを見ていただきますと、「一時預かり」で910万ほど多くなっております。新しい事業を始める上でのシミュレーションを大分綿密に行いました。ただ、これもどのくらい応募があるのかがはっきりしませんでしたので、暫定の数字をつくりまして、それに対するシフトを全部拾い上げて、それに常勤、非常勤を取りまぜて、今年度の見込みよりも900万強増えるような計算になっております。この2つをどうやってやりくりするかが新年度の計算です。

ただ、どのくらい預り人数が増えるかが見込めませんでしたので、全てのお金を盛り込むことは難しいことから、いただく784万から100万を「予備費」として計上させていただいて、全体の資金計画を作成いたしました。

以上です。

【いずみの会】

以上です。

【委員長】

それでは、説明が終わりましたので、質疑応答に移りたいと思います。委員の方からご質問があれば、お願いいたします。ウェブの方は手を挙げていただければ、指名いたしますので、お願いいたします。いかがでしょうか。

今、皆さん、確認している最中ですので、私から1点。

来年度、先ほどからご説明のあった新しい事業、「多様な他者との関わり」の機会創出事

業」という東京都の事業で、既に一時保育の予約いっぱいという話がありました。各曜日1名から2名と書いてあるので、どういう感じに入っているか。時間も1回4時間までじゃないですか。どんな形で、何人ぐらいの方が入られているのか、具体的にお願いします。

【いずみの会】

今のところ、各曜日1名ずつ埋まっている状態で、金曜日だけが4カ月間です。マックスで6カ月間とれるので、ほかの方は4月から9月まで定期利用という形で申し込まれました。

【委員長】

ということは、実質5名。

【いずみの会】

今のところ5名で、予約時間が早い場合はもう1人いけるので、あと1枠あいていると言えあいています。木曜日の後半があいています。

【委員長】

わかりました。基本的には一日の時間帯の4時間、入っているというイメージで、木曜日だけ後半が空いている。

【いずみの会】

木曜日は早かったので、もう1人入れるという感じです。

【委員長】

すごいですね。

【いずみの会】

すごいです。びっくりしました。

【委員長】

特別な周知とかをなさったのですか。

【いずみの会】

ホームページとチラシと、あとはいつも出しているひろばのお便りに載せました。

【委員長】

ちなみに、泉を常時使われていた方ですか。

【いずみの会】

そうです。

【委員長】

ほかの委員の方からのご質問はございますでしょうか。

【委員】

ひろばのところで、シッターさんを利用されている方みたいなお話があったのですけれども、それは何か問題というか課題があるのでしょうか。

【いずみの会】

ひろばの中で一時預かりもやっている施設なので、そこにシッターさんが子どもを連れて利用することに少し疑問がなくはないのですが、利用者さんのことを考えると、うちの予約もとれなかったということで、シッターさんをお願いして、すすく泉で見てもらえれば場所も安心だし、いろんな人の目もあるし、子どもも慣れた場所だしということで利用したいという思いも酌みまして、今までは無制限にどうぞと言っていたのですけれども、ちょっと増えてきてしまった。実は日々のプログラムみたいな、手遊びしたり、スタッフが手伝ったり、いろんなことをしているんだけど、利用者さんがみんなシッターさんだったみたいなことになるのも、ちょっとどうなんだろうという話になりまして、人数制限をさせていただきました。

それから、私たちひろばスタッフは、ただ場所を提供しているだけではなくて、中に入って行って話をしたりするんですね。そういう対応をする場所なので、そこにシッターさんが入って行ってお母さんたちと話をされるのも、ちょっといろいろ問題があったので、こういうひろばなので、ここに配慮してくださいみたいなお願いを紙に書きまして、シッターさんにお渡しして、利用してもらっています。

【委員】

その条件というのはどういった条件になるのでしょうか。

【いずみの会】

条件は、シッターさんの、決めつけたような言い方をしないでくださいとか、こういうひろばです、私たちはこう思っていますみたいなものが「お願い」で、条件は人数を2組までにしています。後から来た方は話し合っただけで交代してくださいみたいな人数制限をしています。

【委員長】

ほかにごございますでしょうか。

【委員】

子育てひろば事業について教えてください。取り組みをすごく工夫されたり、いろんな

アイデアで輪の広がりとか、これまでの積み重ねもあると思うのですけれども、いろんな選択肢を持たれていて、余裕を持って、いい形で実施されているというのがすごく伝わってきました。

子育て相談に関して、困り事で離乳食とか発達に関するものが挙がっているというお話があったかと思うのです。そういったいわゆる子育て相談に対応している方は、どういう方なのでしょうか。先ほど一日を通して保育士は1人常駐しているということがあったかと思うのですが。

【いずみの会】

1人以上ですね。

【委員】

どういう方ですか。

【いずみの会】

相談に乗るというのは、基本的にはひろばスタッフが中心になります。一時預かりスタッフは一時預かりしていて、長いお話もできないと思いますので、ひろばスタッフが中心になってお話をしています。ただ、相談室という場所もないですし、込み入った話をするのはなかなか難しかったりして、端っこで話したり、授乳室の隅で話したりというふうに工夫をしながら話をしています。あとは保健師さんが来てくれるときとか、助産師さんが来てくれる日がありますので、そこにつなげたりということもあります。内容によってですけれど。

【委員】

橋渡しになっているということも記載されていたと思うのです。いわゆるひろば事業のスタッフの中で、資格なし、保育士の資格がないという方もそれにかかわっていらっしゃるということでしょうか。

【いずみの会】

相談となると、具体的に思い浮かべると、資格なしの人が対応した場合はこういう話を聞きましたということで私たちにつなぐぐらいの感じかもしれないですね。一応ほとんどのスタッフが資格は取っているのです。

【委員】

ちょっと気になったのが、自助努力ではどうにもならないところかと思うのですけれども、ひろば事業の資格なしの方の時給が東京都の最低賃金ですよ。幾ら資格がなくても、

保護者の相談に乗ったりという意味では、もうちょっと保障してあげてもいいのかなというのが個人的な感想でもあるのです。経費のことはなかなか難しいと思うのですが、私も保育にちょっとかかわっている面もあるので、最低賃金ってどうなんだろうという思いがありました。

【いずみの会】

資格無しのスタッフが、どこまで相談として受けられるかという部分もあるので、安いですね。

【委員】

今、先生がおっしゃっていた相談なんですけれども、事業の中に、1人1人の感覚とか情緒とか、成長発達とか特別な配慮とか、とても細やかなことが全部出ていると思うのです。そうすると、ひろばスタッフの中での専門性というか、保育士だけではなく、専門の方も入っての相談という形で考えていいのでしょうか。発達にかかわって、特別にそういう先生が来てくださる日があるとか、前にもそんなお勉強会みたいなのがあった気がするんですけれども。

【いずみの会】

そういう日も設けてはいます。日常の中で専門の先生がずっといるということにはなかなかならないんですけれども、そういったプログラムを組んだりしています。発達についてのお話をしてくれる方を呼ぶことはあります。

ただ、日常の中のプログラムで言うと、すすくすくプレイとかすすくすくトークの日がそれに当たります。遊びの中でどういった発達につながる遊びだとか、揺らし遊びはこんなところを刺激しているよ、その程度のことですけれども、それをみんなで学んでいこうよという姿勢でやっています。

【委員長】

松田委員、お願いいたします。

【委員】

毎回丁寧なご説明とご報告をありがとうございます。すすくすく泉のいいところは、相談窓口としているわけではなくて、日常の生活の、もちろん家の中とは違いますが、日常に近い、家の続きみたいなところで気兼ねなくお話しして、信頼できる他者が、子どもにだけでなく大人にもいて、地域への信頼とか子どもを自分だけで育てなくていいみたいなことを、現実で伝えてくれる場所なんじゃないかなと思っています。

資格がない人というよりは、地域の先輩とか、地域が専門とか、そういう感覚なのかなと捉えていて、非専門職、だからこの人には相談しないみたいなことはないのではないかと私は感じています。もちろん、子どもの発達のこととか専門的なことで話が聞きたい方の、まずはつぶやきを受けとめてくれて、そういうことを聞いてくれて大丈夫だよという雰囲気があって、そこから先に、ちゃんと聞いたほうがいいかなと一緒に考えてつなぐということをされているのかなと理解しました。

逆に、そっち側の生活の相談とか、うまくやっていけるかなというところへの不安へのサポートということのほうが多いのかなと捉えていて、地域子育て支援拠点の目的は十分果たしていると感じています。

今、専門家につないだりということはお伺いしたのですが、利用者支援の基本型は武蔵野市さんもやっていらっしゃると思うのです。そういった方へのつなぎ、もしくはそういう方からの訪問みたいなものは、どんな状況なのか教えていただけますでしょうか。

【いずみの会】

連絡は取り合えるようになっています。定期的に訪問はしてくれることになっていますが、来ていないかな。時々。

【事務局】

保健師は月1訪問しています。

【いずみの会】

保健師さんは月1で来てくれています。

【委員】

基本型の方はあまりいらっしゃっていない。そこが連携できていないという感じですかね。

【いずみの会】

0123ですね。来ていません。

【委員】

次年度に向けて、もしかしたらひろばの中だけで解決しなさそうなことを聞き取られて、資源の開発、地域の中にこういう活動があったらいいんじゃないとか、こういう場所をつくってこういうみたいなこともやってくださるような方々なので、ソーシャルワーク、地域の中で課題というか、子育て家庭がちゃんと受けとめられていくということをやっていく人たちでもあるので、ぜひ連携していただきたい。それをすすすく泉さんに頼む

のがいいのかはちょっとわからないですが、ぜひアプローチしていただいて、すすく泉さんがやろうとしていることを理解してもらえると、利用者支援の方々も、子育てを真ん中にどうやっていこうかということの理解が深まるのではないかと思うので、ぜひ連携できるといい。これは市にもお願いなのですが、そこが連携できていくと、来年度は事業計画をつくる年ですので、令和7年からの5年間でどうあったらいいかというところに、すすく泉の実践が参考になるべきだと私は思います。そこをぜひつないでいただけたらうれしいです。よろしくお願いします。

【いずみの会】

訪問はいらしていないですけれども、連絡はいつでもとれるようになっていきますし、ネットワークというか拠点会議的な、定期会議みたいなものをオンラインで開催して、連携してくださっていますので、そこをもう少しつながっていきたいと思います。

【委員】

世田谷もそうなんですけど、滞在してもらうことはすごい効果があると思います。状況を聞いてポイントだけやりとりするというよりは、来てもらって見てもらっておくというのはすごく大事です。リアルな親たちの心の寄せ方というか、相談窓口に来ない人たちが、相談じゃないところで自分たちでどう解決しているかみたいなのをつかんでいただけるといいのかなと思いました。

もう一点ですが、同様に妊娠期の、例えば8カ月の面談の後とか、8カ月面談をすすく泉で集団で利用者支援の方がするとか、そういった工夫は武蔵野市さんでされるのでしょうか。

【事務局】

健康課の寺井です。昨年から出産子育て応援事業が開始されて、伴走型の相談支援と経済的支援を一体的に行っているのですが、8カ月の妊婦、妊娠後期の方にアンケートを当市から送って、アンケート結果から、不安を感じる方、孤立されている方等をこちらで把握して、必要に応じて連絡をとったり訪問したりという形で現在対応を行っているところです。

【委員】

ほかの市町村の事例を見ていくと、こういう地域密着の拠点を活用して、そこで待ち合わせして会うとか、そこにつなぐみたいなことがどんどん進んでいます。もちろん、保健師さんとか医療職の方たちに会うのもいいんですけど、それは医療が点だとしたら行政が

線で、地域でやっていらっしゃる皆さんは面なので、面のところにリアルに、次から足が運べるようなつなぎをしていただけると、すすく泉さんに妊娠期で1回来ておけば、「初めまして」ではなくて、「赤ちゃん、生まれました」で来れるかなと思っています。混み合っているような状況も見受けられるんですけど、ほかの子どもたちと一緒にごちゃごちゃ育つみたいないな感覚を妊娠期につかんでいただけるといいのかなと思います。すすく泉さんのほうでも、プレパパ・ママが来やすいようなしつらえとか、もちろんプログラムもそうですけれども、「どこに座ってもらう？」みたいなどころからリアルに準備していただけるといいのかな。伴走型が始まっているからこそ、そういう流しも増えていくと思いますので、ぜひ妊娠期から受けとめていただけるといいのではないかなと感じました。

【委員】

いつも丁寧に、毎回課題が出てきたりするたびに、それを話し合いながら次につなげていかれているところに、保育の健全さを感じています。ありがとうございます。

2点質問させていただきます。1つが小規模保育事業、定員を10名から11名に増やして、これから新入園児獲得のためのアピールをわかりやすくしていくとご説明いただいたのですが、今の時点でこんなふうにアピールしていこう、こんなことを説明していこうと話しかかれていることはありますかでしょうか。

【いずみの会】

ホームページで今の保護者の方たちの、こういうところがよかったよという声を集めています。次の園に行くことが不安だという方が結構いらっしゃるのです。2歳が終わった後の次の園はというところ、友達ができないんじゃないとか、次の園に戸惑うんじゃないとか、そういうところはどうでしたかみたいところを卒園児の保護者にコメントをもらいました。「実際に行ってみると、いずみのおうちで根っこを育ててもらっているから、次の園でも何とでもなる」、そんな話とかをまとめさせていただいて、それもホームページに載せます。あと、今の子どもたちのいい表情の、こんなことをして遊んでいる、こんなことを楽しんでいるみたいなどを写真で見せられるような形でホームページを作成しているところです。

次の年度の園を探して見学にいらしゃった方にお渡しする用に、この園はこういういいところがありますという特色を出した冊子をつくることも同時に進めています。

【委員】

ホームページを見て来られる方は結構いらっしゃいますか。

【いずみの会】

1人1人に確かめたわけではないんですけど、聞くと「場所、わかります。ホームページを見ましたから」みたいな形で、ホームページを見ている方はいらっしゃると思います。

【委員】

もう1点は、新設で近くにできる園が今後一緒に同じ場所を使うということで、どれくらい近くかはわからないんですけども……。

【いずみの会】

目の前です。

【委員】

そうすると、園のお子さんの声だったり、どのくらい影響があるか気になりました。

【いずみの会】

園の体験会帰りの方がすすくすく泉のひろばにいらして、うちは利用登録をしてもらおうのですけれども、スタッフがバタバタでした。今後話し合っていきたいと思っています。

【委員】

先ほどのシッターさんのルールを決められたように、今まで大事にしてきたすすくすく泉の保育を今後どういうふうにしっかり守っていくか。そのよさに引かれて今いろいろな方が来ていらっしゃると思うので、そのあたりのルールを決めたり、どういうことが起きるかということを、公園利用とか、年齢の大きいお子さんとかも多いと思うので、そのあたりはいろいろ話し合いをしていっていただけるといいのかなと思いました。

【いずみの会】

はい。

【委員】

バスも出ているというお話があったかと思うのですが、目の前で通園バスが走っていると、それこそ子どもたちの動線も変わってきちゃうのでしょうか。

【いずみの会】

どこにとまるかまだわかりません。

【委員】

利用者さんに影響があるかもしれないですね。

【いずみの会】

そうですね。

【委員長】

ほかにございますか。

【委員】

今のお話で、泉さんは防災のこと、防災意識を若い世代にということ、すばらしいなと思っているのですけれども、こういうことが地域の連携につながりますし、先ほどお話が出ていますように、妊娠期からコミュニケーションが少ない方々にも、そういうことが広がっていくことにつながると思うので、こういった取り組みはすばらしいなと思います。

今、近隣にできる園の話もありましたけれども、バスの位置とか自転車で来る方がいたりというので、今言っていた、せつかく進めている防災の部分でも変化が出てくるのかなと思いました。そういうことに関しては、市のほうともお話しして、何か危険なことがあったら早くから対策できるといいなと思います。よろしくお願いします。

【委員長】

鵜川先生、会計の関係で気になったところはございますか。

【委員】

1つだけ、ちょっと確認です。6年度の予算書の、先ほど説明していただいた決算見込みと予算書の資料、その前にあります「活動計算書（案）の費用細目」の数字が一致していないのですが、これは何か理由があるのでしょうか。決算見込みと予算案ですと、収支差額ゼロですね。費用細目のほうは収支差額が600万ぐらいで、結構黒字になっているように見えるのです。何か理由があるのかもしれませんが、一般的には、ここの予算の合計と費用細目の合計が一致するのではないかなと思うのです。何か理由があって差が出ているのでしょうか。

【いずみの会】

誠に申しわけありません、今、具体的につかめないでいるんですけど、令和5年度の見込みと予算の表でよろしいですか。

【委員】

これは収支差額ゼロですよ。その前に「費用細目」という表がありますね。事業別に分類された「費用細目」がありまして、これの収支差額が630万ぐらいの黒字になっているのです。見方がよくないのかもしれませんが、管理部門事業管理というのが横にあって、その下の収支額がゼロになっている。

【いずみの会】

630万ほどの数字というのは、管理部門の科目費用ですか。それは事業に振ってしまうので、その右に赤字で同じ数字を△で入れてあるのです。管理でかかった費用は全部振り分けますので、最終的にゼロということにしてあるのです。

【委員】

当期正味財産計がゼロになっているということですか。表の見方があまりよくわかりません。「費用細目」に「3. 収支差額」とありますね。

【いずみの会】

管理部門の数字でよろしいですか。管理部門の合計が630万あります。その右のほうにマイナス630万の数字を入れてあるのです。これは全部振り分けた数字なんですね。そうすると、プラスマイナスでちょうどこれがゼロになっているのです。ですから、管理の費用は全部部門に振り分けますので、この費用だけが浮くということは、この表からはないんですけど。

【委員】

表のつくり方の問題かもしれませんが、「3. 収支差額」が最後ゼロになるんじゃないかなと思ったのです。内容的には特に問題ないと思います。表のつくり方かなと思います。

【いずみの会】

表で行くと、「3. 収支差額」という欄でよろしいですか。

【委員】

そうです。

【いずみの会】

それは一番右の数字ですね。

【委員】

これが今ゼロになるのかな思ったんですけど。

【いずみの会】

すみません、これはゼロに訂正してください。

【委員】

ゼロでいいんですよ。

【いずみの会】

そうでございます。失礼しました。

【委員】

わかりました。形式的なことですので、それで了解いたしました。

【委員長】

では、お時間も少し超過しておりますので、ご質問はここで切り上げさせていただきたいと思いますが、皆様、よろしいでしょうか。

それでは、ここで質疑を終了いたします。いずみの会の方はここでご退場いただきます。本日はどうもありがとうございました。

【いずみの会】

どうもありがとうございました。

<いずみの会退室>

【委員長】

それでは、いずみの会の方の説明、質疑を踏まえまして、本補助事業が適切に実施されているか否か、来年度事業計画は妥当かどうかの観点から、皆様のご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。何か課題がある、問題があるようなご意見はございますか。特別なご指摘はないということによろしいですか。

【委員】

運営の内容については、すすくすく泉のほうには特にはないのですが、去年定員割れで年度がスタートして、それによって運営費が大幅に削減されたというところが1点ちょっと気になっています。すすくすく泉のほうでもこれからホームページでいろいろ知らせるなど努力をされるというお話はあったのですが、武蔵野市の保育所全体で、小さな年齢の子も空きが出てきている状況と聞いている中で、すすくすく泉のよさが伝わって、定員が埋まればよいと思っているのです。入るお子さんが0歳とか1歳から、5歳・6歳までという、トータルでずっといられる園のほうがやっぱりいいということも考えられるわけですよ。そのときに、運営費が減ってしまう。この1年は大丈夫としても、今後起き得るといったときに、市としてそれをどう考えていかれるか、今の時点でお考えがありましたら、教えていただきたいのですが。

【事務局】

子ども育成課長の吉田でございます。ご指摘のとおり、今、保育園によっては定員の空きが出ているところがございます。すすくすく泉さんは3歳から5歳はないのですが、特に3歳から5歳の部分で認可保育所において空きが出る傾向がございます。また、0歳についても、育休が取りやすくなってきた影響か、空きが出る場合がございます。一

方で、育休を取って1歳から復帰という方もたくさんいらっしゃいますので、逆に1歳の需要が非常に高まっているという認識でございます。例えば、定員の構成を0歳よりも1歳のほうをかなり多めに広げるですとか、そういった調整を行うことによっても利用定員が埋まる可能性は高まるのではないかと考えています。

【委員長】

ほかに確認事項はよろしいですか。それでは、内容は皆さんご理解いただいていると思います。

それでは、特別ご指摘がないようでございますので、今年度の事業実績と次年度の事業計画につきましては特別問題ない、令和5年度において事業計画に基づいた事業を実施している、また、令和6年度の事業については妥当な事業計画が立てられている、この懇談会としてはそういう意見を付すということで皆さん、よろしいですか。ウェブの委員さんも、よろしいですか。

それでは、今私のほうで申し上げましたが、令和5年度において、事業計画に基づいた事業を実施しており、令和6年度について妥当な事業計画が立てられるという意見をこの懇談会から市に伝えるということでまとめたいと思います。

その他、何かご意見のある委員の方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

3 その他

【委員長】

続いて、次回の懇談会の時期について申し上げます。

次回は、令和7年3月ごろ、1年後になりますけれども、現年度の実績と次年度の計画についてのご意見を伺う会を考えております。日程については、事務局から調整させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

事務局から何かございますか。よろしいでしょうか。

【事務局】

それでは、事務局から連絡事項がございます。議事要録につきましては、完成次第メールでお送りさせていただきます。内容をご確認いただきまして、ご自身の発言など修正すべき点があれば、事務局までメールにてご連絡をお願いいたします。修正を反映した後に市のホームページにて公表いたしますので、ご対応をよろしくお願いいたします。

また、本会議の謝礼につきましては、本日ご提出いただいた承諾書に記載の口座に後日

振り込ませていただきます。

最後に、この会議に関しまして何かございましたら、子ども子育て支援課までお問い合わせいただければと思います。よろしくお願いいたします。

4 閉会

【委員長】

以上をもちまして、すくすく泉事業有識者懇談会を終了したいと思います。委員の皆様、本日はご出席いただきまして、ありがとうございました。ウェブの参加の委員の方、ありがとうございました。

以上